



TOHOKU
UNIVERSITY

SCHOOL of LAW 2023

学部案内

東北大学 法学部

世界を知る。
未来を考える。

新しい社会に寄与する人材を養成する 百周年の伝統と変化に対応する教育改革で

東北大学法学部の前身である東北帝国大学法文学部が設置されたのは大正11年(1922年)、戦後、東北帝国大学が東北大学となり、昭和24年(1949年)に法文学部が法学部・経済学部・文学部に分かれました。ですから、今年は前身から数えれば100周年にあたり、様々な記念事業や行事も計画されています(東北大学115周年にもあたります)。

この長い歴史の中で、東北大学法学部は多くの優れた人材を社会に輩出してきました。それを可能としたのは、「研究第一主義」を掲げる東北大学を構成する一学部の教員として、法学・政治学の研究に打ち込み、その成果を学生への教育に連動させて注ぎ込んできた研究者と、向学心・向上心に富み社会貢献の意欲に満ちた学生との相互作用にあったと思います。特に、教員と学生が相互に意見を述べあい、納得のいくまで議論を続けることのできる演習(ゼミ)は、少人数教育を特徴としてきた法学部の重要な授業科目です。東北大学法学部は、基本的に、自由選択制をとっており、ゼミの履修や卒業論文の提出を卒業要件としていませんので、大講義室における授業を履修して単位を修得すれば、卒業することは可能です。しかし、多くの学生は、ゼミに参加し、当該分野の第一人者である教員や新進気鋭の若手研究者である教員と濃密な議論を重ねることによって、論理的に思考する力や、自分自身の考えや意見を相手に説得的に伝える力を涵養することに努めてきました。

また、東北大学の尊重する「門戸開放」の理念や「実学尊重」の精神にも基づき、法曹界や官界などから多くの実務家教員も招いており、法学や政治学に関する理論的知識の習得だけでなく、社会人として備えていることが期待される論理的思考力・コミュニケーション能力を伸ばさせる教育も行われてきました。そうした点も、「法学・政治学に関する正確な基礎知識を身につけ、鋭い正義感覚と幅広い視野から社会に伏在する諸問題を発見・分析し、その解決に努めることを通じて、より良き社会の実現に貢献する人材(法政ジェネラリスト)の養成を行う」という東北大学法学部の教育目的にプラスに作用してきたものと自負しております。

東北大学法学部は、上記のような伝統的な人材養成教育に加え、社会のグローバル化や法曹養成制度の改革といった現代的問題に対応する教育改革も行っており、前者との関係で国際コースを、後者との関係で法曹コースを設けました(その詳細は本パンフレットの関連項目をご覧ください)。これは国際的な活動に従事したいという学生や法曹になりたいという学生に対して、よりの確な教育を提供しようとするもので、従来の伝統的なカリキュラムを拡充し、教育の充実を図るものです。

東北大学法学部は、古き良き伝統を維持し、伸ばしながら、社会の変化やそれに伴う現代的問題に柔軟に対応し、社会の発展に寄与しうる人材の養成と研究成果の発信に努めていきます。

2022年4月1日



東北大学大学院
法学研究科長・法学部長

戸澤 英典

Contents

法学部長あいさつ	2	教員インタビュー	10
教育理念	3	東北大学法学部のカリキュラム	12
学生インタビュー	4	入試情報	14
OB・OG インタビュー	6	ウェブサイトガイド	16
卒業生の進路	9		



東北大学法学部の「教育理念」及び「教育目標」

東北大学法学部では、法学・政治学に関する正確な基礎知識を身につけ、鋭い正義感覚と幅広い視野から社会に伏在する諸問題を発見・分析し、その解決に努めることをもって、良き社会の実現に貢献する人材、すなわち「法政ジェネラリスト」の養成を行うことを教育目的としています。

ディプロマ・ポリシー

東北大学法学部では、次に掲げる教育目的に従い、全学教育科目の単位を39単位以上及び専門教育科目の単位を90単位以上(うち私法・公法科目2単位以上、基礎法科目2単位以上及び政治学科目2単位以上)を修得した学生について、学士の学位を授与する。

1

教養ある国際市民としての素養を備え、法学・政治学の正確な基礎知識を修得し、鋭い正義感と幅広い視野に基づき、社会に生起する問題を発見かつ分析し、利害の衝突を未然に防止し、あるいは紛争を解決することにより良き社会の実現に貢献する人材(法政ジェネラリスト)を養成する。

2

法学・政治学における学術研究または高度専門職(法政スペシャリスト)となるために共通の前提となる基礎知識・素養と幅広い見識を有する人材を涵養する。

3

グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、その基となる国際的視野とコミュニケーション能力を有する人材を輩出する。



カリキュラム・ポリシー

東北大学法学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた教育目的の実現を目指して、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

1

学部開講の授業科目を内容に即して「基礎講義」・「基幹講義」・「展開講義」の категорияに分け、段階的に配置することによって法学・政治学の基礎的な内容を無理なく体系的に修得させる。

2

段階的に配置された講義科目と併行して、1年次から4年次までの学部4年間全般にわたって、「基礎」・「基幹」・「展開」の各講義をフォローアップするため、少人数で開かれる「演習」を多数開講する。

3

成績評価は、講義の場合は定期試験を中心に小テスト・受講態度・課題への取り組み等を総合して評価し、演習の場合は出席、発言の回数や質、課題への取り組み等を総合して評価する方法を原則とする。

1

「基礎講義」とは、1・2年次生を対象に、法や政治の歴史的・思想的・社会的背景を学ぶことを目的とするもので、全学教育と連携しながら幅広い教養と視野を備えた人間の養成を図るものである。

2

「基幹科目」とは、1年次後半から2・3年次にかけて、「基礎講義」の履修を前提として、法学・政治学の根幹をなす主要科目の修得を図るものである。

3

「展開講義」とは、3・4年次において、法学・政治学について、より深い理解とさらに豊かな知見との修得を図るものである。

日本の安全保障に 貢献したい



大槻 周平

おおつき しゅうへい

4年生

出身 秋田県秋田市
趣味 武術太極拳



高校時代に感じた “外にある脅威”

私はもともと国家公務員を志望して、法学部を選びました。国家公務員を進路として考えたのは、高校生のとき、地元秋田で陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」の配備が計画されていたのがきっかけです。それまで漠然と「日本は平和だ」と感じていましたが、これを機に身近に迫る脅威を自分事としてとらえるようになり、安全保障の実務に関わることのできる国家公務員を進路の一つとして考えるようになりました。

東北大学を選んだのは、地元から近く、一線級の教授陣の下で法学・政治学を学べるのが理由でした。授業内

容や進路について相談すると親身になって助言いただくなど、本当に学生思いの先生が多く、この大学を選んで良かったと思っています。

これからの中国との 向き合い方を考える

私は、幼い頃から中国武術である武術太極拳という競技に取り組んでいたことから、中国に興味がありました。私が10代の頃には、日本と中国の間で政治・経済面の摩擦が激しさを増し、日中関係の今後の在り方に関心を持つようになりました。大学では中国政治のゼミに入り、中国政治や国際政治、安全保障の観点から「日本は中国とどう向き合っていくべきか」という大きな課

題について考えています。

日本を含めた先進諸国と中国は、長い期間をかけて育んできた、経済的な深い相互依存関係にあります。この依存関係をもとに、中国は軍拡を含めた対外的に強硬な路線を続けています。このような一筋縄ではいかない条件のもとで、実現可能な形で「中国との関係をどう構築していくか」という課題への答えを探ることは、興味深くも難しい作業でもと感じています。

仲間に恵まれました

東北大学法学部には、仲間が多いと感じています。同学年の仲間とも切磋琢磨しながら勉強に励み、ときには余暇を楽しむなど、多くの人に支えられながら大学生活を過ごしています。友人を始め、教員や先輩など、自分にはない視点を持つ人々に刺激を受ける毎日です。学内に限らず学外にも目を向け、様々な人の話を伺いながら、大学での学びや経験を踏まえ、最終的に自分がどの立場から日本の安全保障に貢献できるのか、広い視野を持って考えていきたいと思います。

幅広い科目を受講する中で 興味を持った法曹コースへ



現役学生から

藤田 和郁見

ふじた わふみ

3年生

出身 愛知県名古屋市
趣味 旅行

Message



さまざまな科目から 選べるのが魅力

もともとは政治や公共政策に興味があり、法学部に入学しました。東北大学法学部は学科が分かれていないため、幅広い科目から興味のあるものを選択して受講することができます。私も法律の授業を受講するうちに法律を学ぶことに楽しさを感じ、2年生から法曹コースに登録しました。今は法律の科目すべてが楽しいです。法律は人間が歴史の中で、秩序だった生活をしようとした工夫の塊であり、その中に人間の価値観が垣間見えるのが面白いと感じています。

高校では受験に向けて覚える勉強が多かったのですが、法学部では先

生に質問すると一緒に考えてくれたり、先生が研究を通して考えていることを教えていただいたりと、先生方のすばらしさも感じています。

サークル活動が 心地良い居場所に

私は現在、楽焼工芸同好会という陶芸のサークルに所属しています。昨年度まではサークル長としても活動をしていました。キャンパス内には陶芸用の窯もあり、ろくろや手びねりなどで器を制作しています。陶芸という同じ趣味を持った仲間たちなので、話が合う仲間がたくさんできました。勉強中に疲れたときにも、部室にいくと誰かがいるので、おしゃべりをして気分転換をしています。コロナ禍で活動を制限されることもありますが、とても心地良い場所となっています。

将来を見据えながら 法律を学ぶ

法曹コースで学ぼうちに、ロースクールに進学して法曹を目指してみたいという気持ちと同時に、先生方と話すな

かで研究職に就いてもっと本格的に勉強してみたいと思う気持ちも芽生えてきました。これから残りの大学生活の中で、自分に合う道を探していきたいと思います。

正直に言えば、高校生の時には法律をしっかり学んでいこうという思いはありませんでしたが、学ぼうちにその魅力や楽しさに気付きました。まだ自分の興味があることが決まっていなくても、東北大学法学部ならさまざまな科目から選んで受講できるので、学びながら興味があることをより深めることができると思います。少しでも法律や社会に興味がある方は、法学部を目指してみたいかでしょうか。



早期卒業制度を利用しながら 将来の可能性を模索中

飴山 翔太

あめやま しょうた

東北大学
法科大学院 2年生

出身 石川県小松市
趣味 野球

部活動に励んだ高校時代から 法学部の道へ

中学・高校と野球部に所属し、東北大学に入学してからも軟式野球部で汗を流しました。高校時代の進路選択においては、社会系の科目に興味があったことから文学部に進学し社会科の教員になって野球部の顧問になろうかとも考えましたが、法学部で学び弁護士になった姉の影響もあり、法学部進学



を決めました。東北大学を選んだ理由は、地元から離れたところで一人暮らしをしてみたいという単純な理由でした。

法学が持つ 奥深い面白さに触れる

入学後は部活やバイトに勤しむ日々でも勤勉な学生とはいえ生活を送っていましたが、コロナ禍に「おうち時間」をどう過ごそうかと思ったときに、せっかくだから真面目に勉強してみようと思い、勉強をはじめたところ、「法律って面白い!」と思えるようになりました。

今では、民法や刑事訴訟法に興味を持っていて、特に刑事訴訟法では、例えば、実際の刑事事件でいかにして証人の公判廷における証言を確保するのか、正確な事実認定をするのかといった点から、証人への付添い、証人の遮蔽やビデオリンク方式による証人尋問といった措置があることを知り、被告人の権利に配慮しつつも、真実の発見のために様々な制度が用意されていて面白いなと感じました。このような、相対立する権利利益をどのように調整していくかというのを考えると、

法学部で学ぶ一つの面白さがあるのではと感じています。

早期卒業制度で 法科大学院に進学

法曹コースには早期卒業制度があり、要件を満たせば3年で学部を卒業して法科大学院に進学することができます。私は、勉強に力を入れはじめた2年前期に成績が大きく向上したことでこの制度を利用しようかと考えだしました。職業については、法曹になり法律実務に携わっていこうかと考えてはいますが、学習を進めていくなかで、研究者の道にも魅力を感じているところで、この点は法科大学院で学習を深めつつじっくりと考えていきたいと思っています。

東北大学法学部には、高い志をもった友と切磋琢磨できる環境がととのっていると感じています。また、学生と教員の距離も近く、私自身、先生方には学習のことや進路のことについて親身に相談にのっていただきました。社会一般や法・政治といったものに興味・関心がある方にはぜひ東北大学法学部を検討して、入学してほしいと思います。

公的な課題に

多面的にアプローチすることができる

地方公務員の道へ



自治体の法制担当として 役割を果たす

私は現在、仙台市総務局総務部文書法制課法制係で働いています。さまざまな業務がありますが、議会に提案する条例案の審査、訴訟対応のサポート、庁内からの法律相談対応などが主な仕事内容です。条例案の審査では、条例の制定・改正の背景となる事実やその制定・改正によって実現したいことがきちんと条文に書いているかどうか等をチェックします。条例の制定・改正による影響は大きいため、この審査はとても慎重に進めています。庁内からの法律相談対応は、問題の所在を明らかにして、その問題に関する条文の解釈や裁判例を示すことが主な内容です。その対応によって担当課の方針が変わり得るため責任の重い仕事ですが、やりがいも感じています。

東日本大震災を機に 地方の課題に目を向ける

正直、法学部に入学したころは公務

員になることを強く希望していたわけはありませんでした。しかし、法学部在籍時に東日本大震災が発生し、市民生活に多くの課題が生じていることをリアルタイムに感じながらも、それらの課題の所在や解決の糸口すらを自分の言葉で語れない状況に勉強不足を感じ、公共政策大学院に進学。研究を通じて自分の目で人口減少下にある自治体が抱える課題を見るうちに、職業として公的な課題に向き合いたいと考え、また庁内に様々な組織を抱えており、一つの課題に対して多面的にアプローチすることができることから、地方公務員を志望しました。

法学部で学んだ論理的な思考力や 情熱を持ち続けたい

東北大学法学部は1学年150人程という規模で、先生方や同級生との距離感が近いので、コミュニケーションがとても活発です。そのコミュニケーションを通して自分の理想や価値観をブラッシュアップし、次の進路につなげることができると思います。法律相談や国際関係のゼミにも所属していましたが、ともに市民の

小丸 翔平

こまる しょうへい

仙台市総務局
総務部文書法制課法制係

【経歴】

- 2013年9月 東北大学法学部卒業
- 2016年3月 東北大学公共政策大学院卒業
- 2016年4月 仙台市健康福祉局
保険高齢部介護保険課
- 2017年4月 仙台市健康福祉局
保険高齢部介護事業支援課
- 2019年4月 仙台市総務局
総務部文書法制課法制係

方々の法律問題に耳を傾け、又は国際関係について議論した仲間とは今でも連絡を取り合っています。ずっと応援し合える仲間と出会えたことは、大学生活で得た大きな財産の一つです。

社会人として過ごす中で、答えが一つでない課題に取り組みなければならぬことがあります。そんな時でも、法学部で学んだ論理的な思考や対立する価値観の間で合意を見出すことを諦めない情熱を大切にしながら、これからも業務に励んでいきたいと思っています。

Message

OB・OGから

愛着ある東北・新潟に

貢献できる仕事を

Message

狩谷 幸子

かりや さちこ

東北電力株式会社新潟支店
企画管理部門総務広報グループ

【経歴】

2020年3月 東北大学法学部卒業

2020年4月 東北電力株式会社入社

生活に密接に関わる
法律について学びたい

新聞記者に憧れて日々のニュースをチェックしていると、法律に関わるものが結構多くありました。法律を学べば、世の中のことがより分かるかな? と思い法学部を志望しました。東北大学を選んだのは、少人数のカリキュラムがあっ



たり、法律相談や模擬裁判等の自主ゼミがあったりと、ここでなら、固く難しそうなの法律も、本当は多くの人の生活に関わる「生きた学び」であると実感できそうだなと思ったからです。入学後は仲間にも恵まれ、勉強を教えてもらうなど良い刺激をもらいました。授業の選択肢も多く、西洋政治思想史や知的財産法など、自分の興味に応じて自由に授業を組むことができました。

東北・新潟を盛り上げる
やりがいのある仕事

現在は地元の新潟支店に配属となり、広報業務を担当しています。小中学生向けに発電の仕組みやエネルギーと地球環境の関わりなどを教える「エネルギー出前講座」や、「ミニバスケットボール大会」、「中学生作文コンクール」といったイベントを担当しています。児童・生徒の皆さんや先生方から、「面白かった」「このような機会を頂けて良かった」と感想を頂くとうれいを感じます。また、世界文化遺産登録が期待される「佐渡島の金山」に関する動画を制作するなどSNSを使って新潟を盛り上

げる発信をしたり、主に社内の新入社員・若手社員向けに、電気事業の基礎知識をまとめた素材を制作したりしています。各方面への細かな調整が必要になるため、相手に失礼にならず、かつ誤解がないようにこちらの意図を伝えるのが難しく、試行錯誤しています。困ったときは、上司・先輩方が快くサポートして下さるので、とても感謝しています。

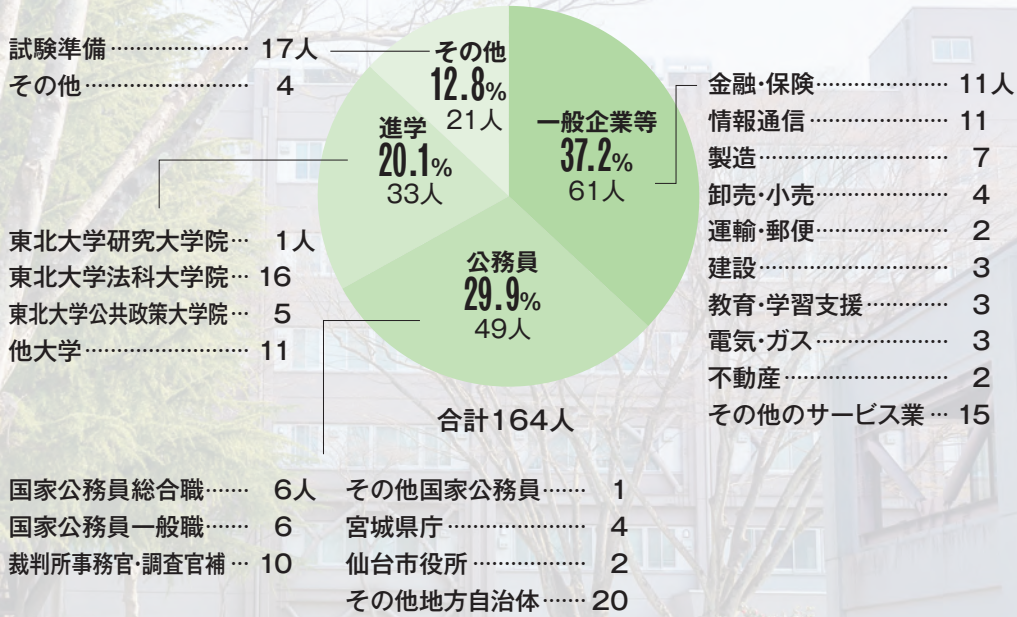
法学部で培った
論理的な思考が役立つ

就職活動では、インターンシップでの経験を通してさまざまなことに挑戦できると感じた民間企業に絞りました。東北電力に入社したのも、地元・新潟や大学進学でお世話になった仙台、仲間がいる東北に貢献できると思ったからです。現在の仕事で直接法律を使うことはあまりありませんが、法学部で学んだ、「文章を読む力、色々な状況を想像する力、言葉や文字で伝える力」はとても役立っています。これからも東北・新潟を盛り上げられるよう、法学部で学んだ力を大切にしながら、誠実に楽しく仕事をしていきたいです。

卒業生の進路

令和3年度

進路先状況

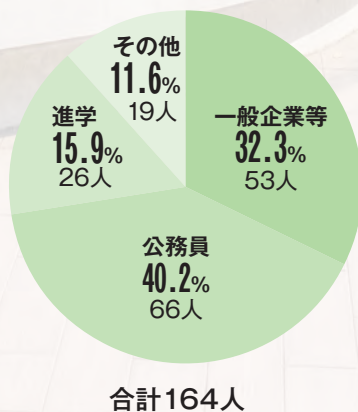


主な就職先

日本銀行、住宅金融支援機構、国際協力銀行、三井住友銀行、住信SBIネット銀行、栃木銀行、農林中央金庫、信金中央金庫、商工組合中央金庫、損害保険ジャパン株式会社、日本経済新聞社、読売新聞、日本放送協会、富士通、東日本電信電話、楽天グループ株式会社、東日本高速道路、内田洋行、トヨタ自動車、ニトリ、キャノンマーケティングジャパン、大林組、旭化成ホームズ、東北電力など

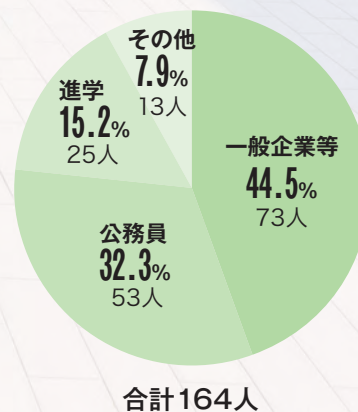
令和2年度

進路先状況



令和元年度

進路先状況





海外にも 目を向けられる授業を

外務省から研究者の道へ

私は、もともと外務省に10年間勤めていました。キューバやハイチなどの中南米諸国との外交や開発協力といった仕事をする中で、それらを研究することに興味を持ち、思い切って大学院に入学しました。その後、大学の研究所、JICA(国際協力機構)の研究員を経て、現職に至ります。

私が専門としている比較政治学は、比較を通して国や地域の政治や経済を研究する学問です。私はラテンアメリカの研究から始めて、アジアの研究にも取り組んでおり、法学部ではアジア政治経済論を担当しています。アジアでは日本が最初に経済発展を遂げましたが、韓国や台湾、続いてタイなど他のアジア諸国も日本のパターンを追いかけるように、かつ、独自の条件を前提に、発展してきたという部分は非常に興味深いですし、20世紀前半に経済発展を遂げたものの、その後は停滞したラテンアメリカとの比較も面白いと思います。

海外に目を向ける授業を展開

他方で、国際ボランティアや開発協力に関する授業も行っており、JICAでの青年海外協力隊の研究を生かし、講義や演習を担当しています。東北大学の学生は海外志向が比較的弱いといわれますが、決してそんなことはなく、授業では少なからぬ学生が積極的に反応してくれます。授業では、海外に関心が向くように少しでも刺激を与えられたらうれしいですね。現在はコロナ禍で海外渡航が難しい時期ですが、日本にいる留学生と話をしたり、インターネットを通して海外の大学の授業に参加したりするなど、工夫次第で交流の機会はたくさんあります。そうした機会を積極的にとらえて、自分なりに見聞を広め、考えや関心を深めていってほしいと思います。

学びたいという意欲を応援する環境

法学部では、政治学についても学ぶことができます。法律や政策が生まれる背景には、政治的な動きがあります。政党、利益団体、官庁の間で対立したり、交渉したりする中で、どこかで妥協して法や政策ができてくる、そんな政治的な面に関心のある人に政治学はおすすめです。教員はとても充実していますし、興味のある授業はかなり自由に選択して受講することができます。意欲を持った学生を受け入れる環境は整っています。



岡部 恭宜 教授

おかべ やすのぶ

専門分野 / 比較政治学
アジア政治経済論
国際ボランティア論

教員から Message

正解のない問題を考え続ける面白さ

民事訴訟法は、民事の事件に対して主に裁判や執行の手続、その前提となる保全の手続などを扱う法律です。2020年には民事執行法が改正され、子どもの引渡しに関する手続が新たに定められたため、最近はそのらの研究も進めています。

民法・刑法と比べ、民事訴訟法は学生にとってイメージづらい科目かもしれません。しかし、手続と一言でいっても幅広い分野があり、他の法律にないような概念や学説、判例があります。手続上でも、法律を機械的に適用するわけではなく、ケースによってさまざまな概念が入ってくることもあります。人々の争いの中でバランスを考えることは正解がなく、どこまでも終わりがなく、難しさであり、面白いところだと思います。

指導教官の影響で研究者の道へ

私は学生時代、周りの影響でロースクールに進学し、民事訴訟法のゼミに入ったことが現職につながっています。ロースクールは基本的には実務家を目指す方が進学しますが、指導教官から研究者の道もあることを教えていただきました。一つのことを突き詰めて考えるのも面白いと思って研究者の道に進みましたが、今となっては自分に合っていたと思います。

授業では、学生時代のことを思い出し、自分も分かりづらかった部分は丁寧に伝えるようにするなど、学生に寄り添う対応をしたいと心掛けています。

法律を学ぶことで理論的な考え方が身に付く

東北大学法学部の学生は、とてもまじめに勉強に取り組んでいて、私もとても感心しています。コロナ禍でのオンライン授業にもすぐに対応していましたし、対面授業と比べてメールやインターネット上のほうが気軽に質問できていたのではないかと思います。

法学部では、法律を勉強することを通じて、理論的な考え方が身に付くと思います。今はスマホやパソコンで文字を打つことが多く、紙に字を書いたり、本を読んだりすることが少なくなってきていると思いますが、法律を扱う仕事に就くかどうかにかかわらず、どの分野でも文字を読んで理解し、自分の言葉にする力は必要になってくるので、法学部を目指す皆さんにも文字を読み書きする力を養ってほしいと思います。

学生に 寄り添った授業を心掛ける



今津 綾子 准教授

いまづ あやこ

専門分野 / 民事訴訟法



魅力的な環境が整うキャンパスライフ

私は2017年に東北大学法学部に着任しました。2018年秋から1年間イギリスのケンブリッジ大学で研究し、本学に戻ってからはコロナ禍となってしまったので、学生と直接触れ合う機会が少ないのですが、東北大学の学生は他の大学と比べて優秀な学生が多いと感じています。キャンパスも、新しくなった講義棟をはじめ、隣接する東北大学植物園で気分転換に散歩を楽しめるなど、とても魅力的な環境だと思います。

思想家・マキアヴェリの魅力とは

私の担当する西洋政治思想史の講義では、古代のプラトンやアリストテレスから近代のモンテスキューやルソーなどの思想家たちを扱っています。私が特に専門的に研究してきたのがマキアヴェリという人物です。私が学生のころ、中東の政治情勢は非常に厳しく、平和な日本にいなながらも、厳しい現実を見ないといけないという思いがありました。そのときにマキアヴェリの『君主論』を読み、その中で彼が自らの政治理念を情熱的に追求しつつも現実を冷静に分析しているところに魅力を感じました。

西洋政治思想史は、その大半がキリスト教の影響のもとにあるため、キリスト教を理解することが必要です。また、抽象的な概念を扱うことは年齢を重ねないと難しいところもあります。しかし、政治思想史は当時の歴史的な状況から思想家の政治的な意図や思想を読み解く学問であり、それゆえに実は現代の認識や価値観が当たり前ではないことに気付かされます。歴史的な理解は、現代の私たちの考え方を反省的に振り返り、政治的な視野を広げることにもなると思います。

リーダーシップを持った人材輩出を目指して

私はこれまでいくつかの高校で模擬授業を行ってきました。ほとんどの高校生は、法学部の学生は法律家になるというイメージを持っていますが、法学部から法律家になる人はかなり少数です。むしろ大半の学生は、一般企業や官庁・役所に就職しています。法学部での学びは法律家を目指すことに限定されていません。私は、みなさんが法学部での学びを通じて社会の中でリーダーシップを発揮し、社会や組織を引っ張っていける人になってほしいと願っています。

歴史を学ぶことは、視野を広げることにつながる



鹿子生 浩輝 教授

かこ ひろき

専門分野 / 西洋政治思想史
政治哲学



教員から

Message

知的好奇心を刺激する
法律の世界へ



より深く学ぶことで知的好奇心を刺激される

労働法とは特に立場が弱いとされる労働者のための法律をまとめた法分野で、その中でも労働者が集団となってより良い労働条件を使用者と交渉する労働組合法を中心に研究しています。

日本は歴史的に使用者側が強く、労働者側が良い条件を勝ち取っていくのが難しい現実があります。どこまで法律で保護して、どこまで交渉に委ねるかを個別に考える必要がありますが、集団の自治という理念を押し通すだけでなく、労働者自身が勝ち取っていくべき権利の調整を図っていくことが魅力だと思います。

海外と比較して考える日本の労働法

2年間ドイツに留学しましたが、暗黙の前提や社会的な実態を踏まえて制度ができていたり、現地の人の考え方など、本を読むだけでは分からないことを学ぶことができました。留学の経験は私にとって大きいものでしたね。

日本は海外の影響を受けて法が作られたという経緯があり、海外の動向との比較法で研究されることがほとんどです。しかし、すぐに海外と同じようにやるべきと考えるのではなく、社会の実態を踏まえた上で法律を考えていかないと、本当の労働者の保護にはなりません。日本として独自の道を歩んでいくための答えはひとつではなく、それを考えていくのはとても興味深いと思います。

曖昧だから面白い学問としての魅力

労働法は身近に感じやすい分野だと思いますが、できるだけ具体例を出して対処法を考えるなど、学生がイメージしやすいように工夫しています。学生に対して、どんなことに疑問を持っているのか、何に悩んでいるのか、できる限り話を聞くように心掛けています。

日本は法治国家であり、問題があればまずは法律を確認する必要があります。社会の仕組みや法律のあり方を学ぶことは生きていく中で大切なことであり、法律の枠組みの中で説明できる力を身に付けるのが法学部だと思います。また、法には絶対的な答えはなく、さまざまな選択肢からより良い方を見つけていくという曖昧さが、学問として面白いと思いますし、さまざまな分野に応用することができると思います。ぜひ興味を持っていただければ幸いです。

桑村 裕美子 教授

くわむら ゆみこ

専門分野 / 労働法





東北大学法学部で学ぶ

東北大学法学部のカリキュラム

「法政ジェネラリスト」の養成

本学部が養成しようとする「法政ジェネラリスト」とは、法学・政治学に関する正確な基礎知識とともに、幅広い視野と基礎的素養をもつ人材であり、多様化・複雑化する社会において、法曹、公務員そして企業人としてリーダーシップを発揮できる人材です。本学部では、その養成の基本となるカリキュラムを用意しています。

講義科目の3つのカテゴリー

学部の講義科目は、その内容に即して「基礎講義」「基幹講義」「展開講義」に大別されています。

「基礎講義」は、法律分野の前提知識を学ぶ「私法・公法科目」（「民法法入門」など）、法学の歴史的・思想的・社会的背景を学ぶ「基礎法科目」（「法と歴史I」など）、本格的な政治学学習の準備を図る「政治学科目」（「西洋政治思想史I」など）の3つの分野から構成されています。

「基幹講義」は、憲法をはじめとする六法を中心に、法学・政治学の根幹部分を重点的に学ぶ主要科目です。

「展開講義」は、「租税法」や「比較政治学I・II」など法学・政治学について、より深い理解とさらに豊かな知見を修得することを目的とする、先端的・学際的な科目です。

「演習」における少人数教育

さらに、以上の3つのカテゴリーの講義科目と並行して、学部4年間の全体を通して、少人数教育により各講義をフォロー

アップする「演習」が多数開設され、学部4年間の全般にわたって履修できるようになっています。演習においては、定められたテーマをめぐる討論など、学生の主体的・相互的・意欲的な学習活動によって、学びを深めます。

柔軟・自由な履修

こうした「基礎講義」「基幹講義」「展開講義」「演習」は、1年次から無理なく学習を進められるよう段階的に配置されています。その中で「基礎講義」は3つの分野から2単位ずつが選択必修とされ、幅広い基礎的素養の習得が目指されます。これに対して、「基礎講義」以外では、必修・選択必修といった縛りはなく、また特に対象学年が限定されている科目を除いては、好きな時期に履修することも認められており、それぞれの目的・関心に応じた自由で柔軟な履修が可能です。

さらに高度の学びを —— 2つのコース

法学部には、「法政ジェネラリスト」としての幅広い視野と基礎的素養の上に、より高度かつ専門的な学びを積み重ねようとする学生のために、2つのコースを開設しています。1つは、法科大学院への進学を目指す学生を想定した法曹コース、もう1つは、国際的に活躍することを目指す学生を想定した国際コースです。法曹コースは法科大学院と、国際コースは研究大学院の修士課程とそれぞれ連携して、充実した教育プログラムを提供しています。

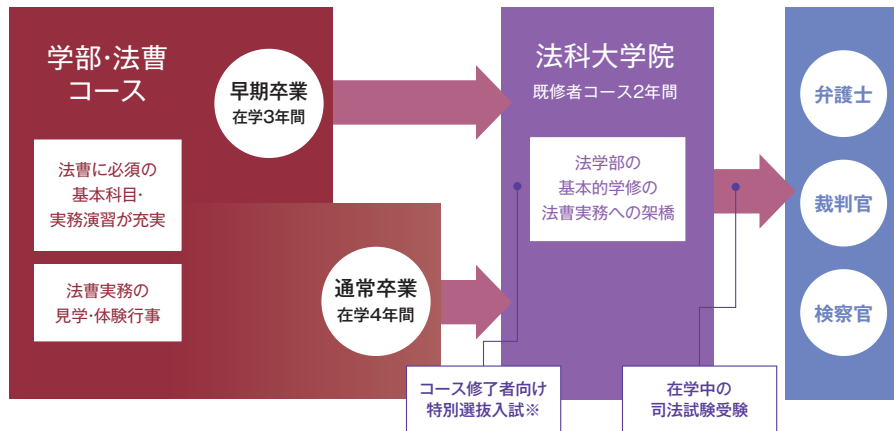
		講 義	演 習 (少人数教育)
4年次	全学教育 全学教育科目(39単位) 基盤科目 ■学問論 ■人文科学 ■社会科学 ■自然科学 ■学際科学 先端科目 ■現代素養科目 ■先端学術科目 言語科目	展開講義 *法学・政治学について、より深い理解とさらに豊かな知見を得ることを目的とし、基幹講義よりもさらに先端的・学際的な内容を学ぶ。	多彩な演習 *各講義をフォローアップする演習が多数開設される。 *充実した少人数教育によって学生の主体的な関心・意欲に基づいた教育が行われる。
3年次		基幹講義 *法学・政治学の基礎的・根幹的部分を重点的に学ぶ。	
2年次		基礎講義 *法や政治の歴史的・思想的・社会的背景を学ぶ。	
1年次			

*カリキュラムに関する記述は令和4年度のものです

法曹 コース

弁護士等の夢へ一直線

法学部・法科大学院一貫の法曹養成教育



法学部入学から最短5年で司法修習・法曹実務へ

※連携法科大学院(東北大学法科大学院)の5年一貫型特別選抜入試では、所定の成績要件等を満たして法曹コースを修了した場合、法律科目の筆記試験が免除されます。法曹コース修了者は、この他、連携・非連携法科大学院が実施する開放型特別選抜入試を受験することもできます。



法曹コースについては
文部科学省Webサイトも
参照してください。

<https://www.mext.go.jp/3plus2/>

コース
紹介

国際 コース

法学部から世界へ！

国際コースとは・・・

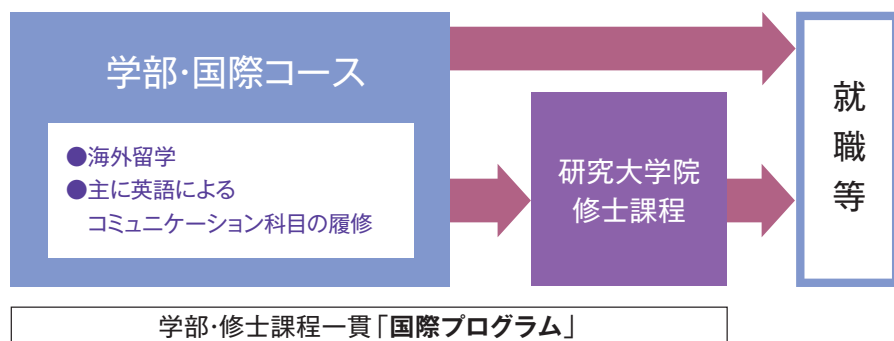
国際的な視野を備えた法政ジェネラリストを目指す法学部学生に対して、海外留学を必須とした多様な教育プログラムを提供するコースです。国際コースは、学部・修士課程を通じた教育プログラムである「国際プログラム」の中に位置づけられています。希望者は、学部の早期卒業制度と修士課程の早期修了制度を活用することにより、学部・修士課程を5年で修了することができます。

国際コース修了後の進路

国際コースを修了して学部を卒業した後は、

- 研究大学院の修士課程への進学(国際プログラム)
- その他の大学院(法科大学院、公共政策大学院、海外の大学院等)への進学
- 就職(国際的な企業、国際機関、外務省、経済産業省、JICA、JETRO等)

などの進路が想定されています。





入試情報

東北大学法学部では、主に「一般選抜入学試験(前期日程)」「AO入試(総合型選抜)Ⅱ期」「AO入試(総合型選抜)Ⅲ期」という3つの入学者選抜方法を設けています。

法学部は、良き社会の構築に寄与する知的人材の育成を理念としています。そのため、入試では、現代社会の直面する諸問題に関心を持ち、大学で養った法学的・政治学的知識と思考力を活かして、社会に貢献する意欲のある人を求めています。

AO入試では、特に、国内の地域社会からグローバル社会にわたる法的・政治的諸問題への関心を強く持ち、論理的思考力と英語能力を有する人(AO入試Ⅱ期)、現代社会に生じる法的・政治的諸問題についての幅広い関心と、法律・行政に関する実務や研究に将来携わろうとする強い意欲を持つ人(AO入試Ⅲ期)を求めています。そのため、AO入試では、書類審査の評価と面接試験が実施されます。

【募集人員】

	定員160名
一般選抜入試(前期日程)	112名
AO入試Ⅱ期	24名
AO入試Ⅲ期	24名

【入試制度の概要】

	第1次選考	第2次選考
一般選抜入試* ¹ (前期日程)	大学入学共通テスト (国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語)	個別学力試験 (国語、数学、外国語)
AO入試Ⅱ期 * ² * ³	出願書類の審査 + 筆記試験 (英文読解力、論理的思考力)	面接試験
AO入試Ⅲ期 * ²	出願書類の審査 + 大学入学共通テスト (国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語)	面接試験

*¹ 一般選抜では、「主体性評価チェックリスト」を最終段階選抜で活用します。

*² AO入試では、東北大学法学部での勉学を強く志望し、合格した場合には必ず入学することを確約できることが出願要件です。

*³ AO入試Ⅱ期では、現役であること、かつ、調査書の学習成績概評がA段階であることも出願要件となります。

【配点】

	第1次選考	第2次選考
一般選抜入試 (前期日程)	* ¹	大学入学共通テスト 450、個別学力試験 900 計 1,350
AO入試Ⅱ期	出願書類 100 + 筆記試験 900 (英文読解力、論理的思考力)	筆記試験 900、出願書類 100、 面接試験 300 計 1,300
AO入試Ⅲ期	* ² 出願書類 100 + 大学入学共通テスト 900 (国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語)	大学入学共通テスト 900、出願書類 100、 面接試験 300 計 1,300

*¹ 志願者数が募集人員を大幅に上回り、個別学力試験を適切に実施できない場合に、大学入学共通テストの成績(素点)により、選抜を実施します。

*² 志願者数が募集人員を大幅に上回る場合に実施します。

【2023年度 入試日程】

	大学入学共通テスト	筆記試験	面接試験
一般選抜入試 (前期日程)	2023年1月	2023年2月25・26日	—
AO入試Ⅱ期	—	2022年11月5日	2022年11月19日
AO入試Ⅲ期	2023年1月	—	2023年2月6日

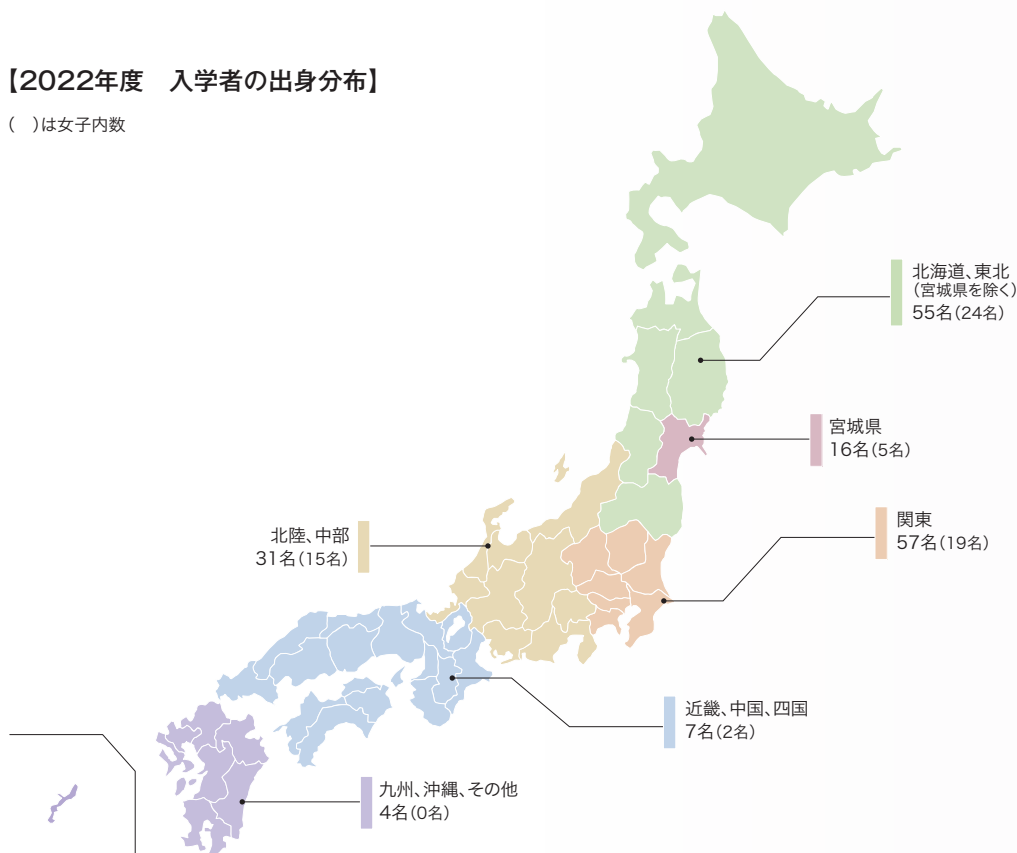
【2022年度 入試実施結果】

	定員	志願者数	第1次選考 合格者数	第2次選考 合格者数	入学者数
一般選抜入試 (前期日程)	112	310	— (実施なし)	123	121
AO入試Ⅱ期	24	81	36	24	24
AO入試Ⅲ期	24	51	36	24	24

※このほか私費外国人留学生入試 入学者数1名

【2022年度 入学者の出身分布】

()は女子内数



【その他】

※最新の情報は、必ず、東北大学入試センターのウェブサイトをご確認ください。

※2023年度の入試には今後変更が生じる場合がありますこと、ご了承ください。

もっと知りたい!

東北大学法学部 ウェブサイトガイド

Q クラブやサークルについて知りたい

- ▶ [東北大学学友会・サークル](#) [検索](#)
- ▶ [東北大学法学部自主ゼミ](#) [検索](#)

大学全体の部活・サークルに加えて法学部では、「自主ゼミ」と呼ばれる独自のサークルが活発に活動しています。



学友会・サークル



法学部自主ゼミ

Q 東北大学法学部にはどのように行ったらよいですか

- ▶ [東北大学川内キャンパスマップ](#) [検索](#)

Cエリア内のC12の建物が法学部棟です。授業はC18中講義棟やC19文科系総合講義棟などでも行われます。最寄駅は仙台市営地下鉄東西線「国際センター駅」または「川内駅」です。



キャンパスマップ(川内)

Q 大学でどのような授業が行われていますか

- ▶ [東北大学シラバス](#) [検索](#)

「シラバス(講義要項)」は、大学で開講されている授業の目的や進め方、教科書などの教材に関する指示を記した計画書です。全学共通科目と法学部専門科目に分けて、それぞれシラバスが公開されています。



シラバス

Q どんな先生がいますか?

- ▶ [東北大学法学部教員紹介](#) [検索](#)

法学・政治学の様々な領域を専門とする研究者教員・実務家教員が、学生に対する教育や学術的研究のほか、専門知識を生かした社会貢献活動に取り組んでいます。



教員紹介

Q 図書館について知りたい

- ▶ [東北大学附属図書館本館](#) [検索](#)
- ▶ [東北大学法学部図書室](#) [検索](#)

法学部の学生が主に使うのは、図書(本)と一般雑誌の蔵書が豊富な附属図書館本館と、法学・政治学の専門雑誌を集めた法学部図書室です。



附属図書館本館



法学部図書室

Q 困ったときにはどんなサポートを受けられますか

- ▶ [東北大学法学部学生支援ポータル](#) [検索](#)

法学部ウェブサイト上に、大学全体・法学部の学生支援に関する情報へのポータルサイトを作成しています。



学生支援ポータル

オープンキャンパス(対面&オンライン)の情報は入試センターウェブサイトで



お問い合わせは

東北大学法学部・法学研究科

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1

TEL.022-795-6175(教務係)

ホームページ:<http://www.law.tohoku.ac.jp/>

発行日:2022年6月